

令和6年度第2回大網白里市地域公共交通活性化協議会 議事録

- 1 日 時 令和6年9月19日（木）午後3時から
- 2 場 所 大網白里市保健文化センター3階ホール
- 3 出席者 別紙委員名簿のとおり
- 4 配付資料
 - 次第
 - 委員名簿
 - 席次
 - 増穂地区コミュニティバスチラシ
 - 白里地区コミュニティバスチラシ
 - ・議題
 - 議題（1）公共交通空白地域の解消について資料1-1, 1-2
 - 議題（2）公共交通に関するアンケート調査の実施について資料2
 - ・報告
 - コミュニティバスの共通回数券について

1 開会

（事務局 久保）

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議の出席者数は、委員18名中、代理出席を含め、現在のところ16名でございます。

轟会長の方からご連絡がありまして、ただいまこちらの方に向かわれているということで10分ほど到着が遅れるとのご連絡いただいておりますので、その前に資料の確認等を進めさせていただきたいと思っております。

また、成田委員からは、事前に本日欠席される旨ご連絡をいただいております。

それでは、会議開会に先立ちまして資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料でございますが、事前にお送りした資料と、本日配付いたしました資料がございます。

～配付資料について確認～

本日は、大網白里市地域公共交通活性化協議会傍聴規則に基づき市ホームページにてご案内いたしましたが、傍聴者はおりませんでしたのでご報告申し上げます。

なお、携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りいただきますようお願いいたします。

それではこれより令和6年度第2回大網白里市地域公共交通活性化協議会を開会いたします。

次第に沿いまして、進めさせていただきます。

はじめに、会長挨拶でございますが、轟会長の到着が遅れておりますので、本日は副会長の堀江の方から挨拶させていただきます。

2 副会長挨拶（堀江委員）

9月も、中下旬になって今日から彼岸の入りということですが、

暑さは相変わらずということで、気候帯も大分変わってきているので、皆様におかれましては健康に十分留意をさせていただきたいというふうに思います。

さて本日の協議会でございますが、次第に示しますとおり、公共交通空白地域の解消、公共交通に関するアンケート調査の実施というのが主な議題でございます。

すでにご案内の通り瑞穂地区におきましては、昨年3月に、路線バスが休止ということになっております。

特に瑞穂地区につきましては、移動手段の確保に課題のある地域ということで、声も上がってきております。

本日は瑞穂地区の公共交通の導入検討について意見交換、討議をしていただきたいと思いますというふうに考えております。

会長の到着が遅れているということですので、到着されるまでの間、進行を務めさせていただきます。

それでは、事務局より、議題の（1）公共交通空白地域の解消について 説明をお願いします。

3 議題

（事務局：齋藤）

～議題（1）について説明～

※轟会長到着。議長を交代。

（轟会長）

ありがとうございました。

それでは、議題の（1）について、何かご意見等ございますでしょうか。

（小野委員）

公募委員の小野でございます。

資料1-1についての質問ですが、このみずほ台循環は現在運行していない路線ということでしょうか。また、本市の場合、公共交通空白地域の定義は、バス停・駅から1 km以上離れている地域だと思います。主婦の店が空白地域に入っていないのですが、駅から1 km以内にあるのでしょうか。

(事務局)

それでは、資料1-1について説明いたします。

みずほ台循環につきましては、現在休止路線となっております。

また、主婦の店については、千葉中央バスの運行する大網駅線のバス停から1km以内にございますので、空白地域には入っておりません。

(関東運輸局)

委員の小林の代理の高橋と申します。

資料1-2の今後の事業予定でアンケートを実施するということですが、実施時期が10月上旬から10月16日までの2週間程度でちょっと短いかなと感じまして、この期間設定にした理由を教えてくださいませんか。

(事務局)

アンケートの実施期間についてお答えします。市の実施するアンケートにつきましては、期間を2週間程度に設定することが多くなっております。理由としましては、期間を長くすると、回答が先延ばしになり、回答率が低くなる恐れがあるためです。

(轟会長)

その他よろしいでしょうか。

ご意見等なければ瑞穂地区への公共交通導入検討を進め、また、その第1弾としてアンケート調査を実施するという事によろしいでしょうか。

～異議無し～

(轟会長)

ありがとうございます。事務局は、提案どおり進めていただければと思います。

それでは、続けて議題の(2)公共交通に関するアンケート調査の実施についてです。事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：齋藤)

～議題(2)について説明～

(轟会長)

ありがとうございました。

それでは、議題の(1)について、何かご意見等ございますでしょうか。

(永田委員)

公募委員の永田でございます。

アンケートが2週間程度ということですが、10月上旬発送となると、到着までの期間を含めると、市民が回答できる期間は2週間未満になってしまうと思うのですが、そのあたりはどのように準備を進めるのでしょうか。

(事務局)

本アンケートにつきましては、9月下旬に発送予定ですので、調査対象者のお手元に届いてから2週間程度の期間は設けられると考えております。

(轟会長)

その他ございますでしょうか。

(小野委員)

意見として申し上げますが、今回のアンケートの趣旨は、瑞穂地区の空白地域の解消ということで、公共交通に関するアンケートは過去に何度も実施されていると思います。回答を分析・集計する際のお願いですが、自家用車を保有している世帯・保有していない世帯で分けて分析をお願いしたいです。自家用車の有無で大分違う回答になり、今後の方針等を決める際の参考になると思います。

(轟会長)

その他ございますでしょうか。

(永田委員)

アンケート調査対象世帯数が、約1,800世帯とのことですが、瑞穂地区の総世帯数・人口、併せて、現在コミュニティバスが運行している、増穂地区と白里地区の世帯数等を教えてください。

(事務局)

瑞穂地区の総世帯数は、約5,500世帯、人口は約11,000人となります。増穂地区・白里地区については、現在資料の持ち合わせがございませんので、後日回答させていただきます。

(永田委員)

続けて、アンケート内容についてですが、3ページ目のデマンドタクシーのイメージ図について、点線は消してもいいと思います。何軒か回って目的地まで行く交通手段ということが分かればいいと思いますので、点線がない方がイメージが伝わりやすいと思います。次に、4ページ目の問2(2)の選択肢、「タクシー利用補助券の交付」について、割引率次第では、「割引券の交付」に誘導するような形になってしまうと感じました。

次に、問3(2)の「コミュニティバスを利用したい理由」の選択肢について、「自動車の運転が難しい」というのは、車があるけど、体が不自由だから運転できないとか、目が見えにくいから不安があるからみたいにとらえられかねないので、実際に、移動手段を全く持ってない人、ないしは自転車しかない人 みたいな、ストレートな言い回しの選択肢があったほうが良いと感じました。

次に、問3(5)コミュニティバスが運行した場合の行き先について、例えば金融機関、郵便局とか、銀行とかですね、もう少し選択肢を増やした方が回答しやすいと思いました。あと、前の質問に戻りますが、(3)の「コミュニティバスをいつ利用したいですか」という設問ですが、日にちは未定だけでも、「月の内、2回ぐらいは出かける」「郵便局に行く」とか「市役所に行く」みたいに、出かける日は特に決まってない人もいます。

「曜日にこだわらない」とか「特に決まってない」の様な質問を追加した方が、回答しやすいと思いました。

(轟会長)

ありがとうございました。意見を参考に、アンケートのブラッシュアップの検討をしていただければと思います。

私からも1点意見を申し上げますと、この様なアンケートは基本的に過剰に意見等が出てくると思います。あった方がいかどうかとなったら、皆さん大体それはあった方がいい。それから、いつか使うかもしれないとあってこういう発想で回答をされると思いますが、その時に一方で、公共交通の運行にはどのくらいの費用がかかるということも皆さんに認識していただくことが重要だと思います。

例えば、コミュニティバス・デマンド交通の運行には一般的にこれだけの費用が発生し、そのうちの、補助金・収支率はこのくらい。みたいに、これだけの税金が公共交通の運行にかかっていると知っていただくと、本音の意見が伺えるのかなと思います。

運行経費等に係る情報が記載されると、問2(1)の回答内容も変わってくると思います。アンケートには、市の施策・実態を知ってもらうという効果もありますので、ご検討いただければと思います。

その他いかがでしょうか。

(小野委員)

3ページ目のコミュニティバスとデマンド型乗り合いタクシーとの比較において、乗車方法としては利用者登録した方が事前に予約して利用～と書いてありますが、これは、一般的にスマートフォンでないと予約ができないと捉えてしまう方もいるかと思います。できればですね、この中に例えば電話、電話等での予約も可能みたいに、その使いやすさを少し入れていただきたいなと思います。

そうすると、コミュニティバスとデマンドタクシーのどちらを利用したいと判断する際の材料になると思います。

※デマンド型乗合タクシーの説明「その他」で、電話予約可の表記有り。

(轟会長)

その他いかがでしょうか。

特にご意見等無ければ、今出た意見等を参考にアンケート内容の修正を検討していただき、アンケート調査実施に移る方向でよろしいでしょうか。

～異議無し～

(轟会長)

ありがとうございます。

それでは、この内容で進めていただければと思います。

なお、アンケート調査の結果・今後の方針等の協議は12月の協議会で説明があるとのことです。

では続きまして、次第4「その他」について、何かございますでしょうか。

(事務局)

配付資料はございませんが、コミュニティバスの共通回数券について説明させていただきます。

本市ではコミュニティバスの利用促進のため、令和4年11月より、バスで使用できる共通回数券の販売を行っております。

また白里地区のコミュニティバスにつきましては、この4月より増穂地区のスーパーカスミに停留所を設置し、多くの方にご利用いただいているところです。

市としましては、カスミ利用者による需要が見込まれるため、カスミの料金区分に対応した新しい回数券の販売を検討しております。

新たに共通回数券を販売する場合、運賃分科会の承認が必要となるため、12月開催予定の活性化協議会終了後、運賃分科会を開催する予定ですので、関係委員の皆様におかれましては、ご了承いただければと思います。

その他の報告事項は以上となります。

(轟会長)

ありがとうございます。

ご意見等ございますでしょうか。

(小野委員)

白里地区コミュニティバスの停留所が新しく増えた、カスミについて、白里地区ではもうスーパーが事実上なくて、増穂地区のカスミまで行かないといけないのが現状です。

カスミに停留所ができたことによって、どのくらい利用者が増えたのか教えていただければと思います。

(事務局)

令和5年度につきましては、4月がですね、223人、5月が194人。6月が212人、7月が210人。8月が260人に対しまして、令和6年度、4月以降がですね、4月が271人で48人、5月が259人、6月が251人、7月が319名となりまして、毎月、前年から見ますと大分増えているような状況が見受けられます。

(千葉運輸局)

12月の協議会の後に、運賃分科会を開催予定とのことですが、開催前に輸送局とよく事前に協議をしていただきたいのと、分科会を協議会の前に実施していただきたい。

というのも、他市では分科会を開催してから、協議会で結果報告をするというケースが多く見られます。

運賃分科会の後に、事業者さんは運輸局で行う手続き等がありますので、運輸局・事業者等、関係者と要調整のうえ、分科会を開催していただきたいです。以上です。

※昨年度、はじめて運賃分科会を開催する際に、すでに調整済みであり、協議会終了後に分科会を開催する流れが望ましいとの結論に至ったことを確認。

(轟会長)

その他ございますでしょうか。

それでは、最後にお話をさせていただきますが、全国的には、ドライバー不足とか色々な問題があって、今日もありましたけど、路線バスの廃止だとか減便だとか、こういった問題が多くなっています。

それに対してやはり利用者をいかに増やしていくかって、なかなか難しいですが、これをしっかりやらないと、地域の公共交通維持ができませんので、ぜひ皆さんとともに良いアイディア、そして実際に動いて、利用者を増やすっていうことをして維持活性化ができればと、このように思っております。

では、事務局へ進行をお返しします。

(事務局 久保)

ありがとうございました。

委員の皆様におかれましては、長時間にわたるご協議ありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第2回大網白里市地域公共交通活性化協議会を終了とさせていただきます。

お疲れ様でした。